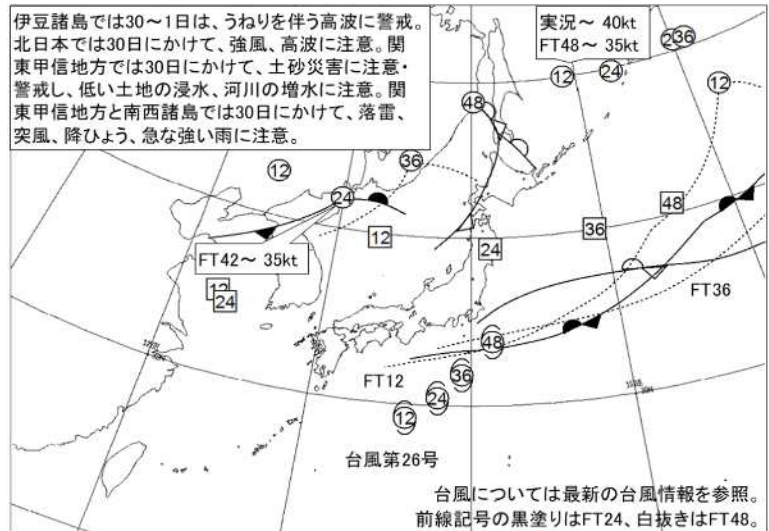


1. 実況上の着目点

- ① 台風第26号が日本の南を北東進。台風周辺の対流雲域の雲頂高度は低下傾向。
- ② 華中から西～東日本太平洋側付近を通り日本の東へ前線がのびて南北に降水が広がり、本州の南海上で強い雨を解析。
- ③ 低気圧がオホーツク海を北東進。低気圧周辺の風の強まりで、北海道地方では強い風を観測し、沿岸で3m以上の波高を観測。
- ④ 低気圧が中国東北区を東進。
- ⑤ 高気圧が中国東北区を東南東へ移動。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の台風は次第に勢力を弱めながら、10月1日朝にかけて伊豆諸島付近を通り日本の東へ進み、次第に日本付近への影響は小さくなる。1項②の前線は次第に華中から西日本では不明瞭化し、30日夜にかけて本州の南海上に停滞した後、ゆっくり北上する。1項④の低気圧は、次第に500hPa 5460m付近で-24℃以下の寒気を伴う正渦度極大域に対応しながら発達し、1日朝までに間宮海峡へ進み、前線は閉塞し北海道付近へ達する。1項⑤の高気圧は、1日朝にかけて、日本海を通り日本のはるか東へ移動する。このため、北～西日本の前線の影響を受けにくい地域では高気圧の張り出しで晴れ間が広がる。台風第26号の影響で非常に強い風が吹き、大しけとなる所がある。オホーツク海や間宮海峡へ進む低気圧の影響で、強い風が吹き、しける所がある。伊豆諸島では30～1日は、うねりを伴う高波に警戒。北日本では30日にかけて、強風、高波に注意。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。これまでの大雨で地盤が緩み、少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まる所があることに留意。関東甲信地方では30日にかけて、土砂災害に注意・警戒し、低い土地の浸水、河川の増水に注意。関東甲信地方と南西諸島では30日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

② 1日は、2項①の台風第26号が日本の東を北東進し、その後、温帯低気圧に変わる。2項①の間宮海峡へ進む低気圧は1日朝にかけて停滞し、前線は北日本を通過する。前線通過後は下層の寒気が北日本に広がる。500hPa 5400m以下で-30℃以下の寒気を伴う寒冷渦が沿海州付近へ進み、北海道地方を中心に上空に寒気が広がる。低気圧や前線に向かう下層暖湿気と上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。北日本では1日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。低気圧や前線近傍での風の強まりや台風第26号の影響で、強い風が吹き、波が高くなる所や大しけとなる所がある。北海道地方と関東地方では1日は、強風、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

②波浪(明日まで)：伊豆諸島6、北海道4、東北・近畿3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。